

平成31年度
環境関連施策（プロジェクト関連事業）について

環境部環境政策課

目次

| | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | みんなで輝く LEDで光るまちプロジェクト | 1 |
| 2 | みんなで創る エコまち推進プロジェクト | 2 |
| 3 | みんなで守る 水と緑 自然共生プロジェクト | 4 |
| 4 | みんなで進める MOTTAINAI プロジェクト | 6 |
| 5 | みんながつなぐ 環境「まなび」プロジェクト | 8 |

◎資料中の平成30年度実績は、資料作成時点における見込み数値または年度途中の実績に基づくものであり、最終的な数値ではありません。

◎平成31年度予算については、現在、議会で審議中のため、議決後に確定することになります。

1 みんなで輝く LED で光るまちプロジェクト

長寿命で省エネ性能に優れたLEDの特性を活かして、エコで快適なLEDで光るまちの実現を目指します。

また、「光」の名を有するまちとして、環境にやさしく明るいまちの象徴となるLEDの活用に積極的に取り組みます。

(1) 省エネ生活普及促進事業【継続】 予算額 6,000 千円

(みんなで創る エコまち推進プロジェクトの省エネ設備補助金を含む)

家庭における省エネルギー化の促進を図ることで地球環境への負荷を低減し、併せて地域経済への波及効果を促すとともに、「光」の名を有するまちとして、環境にやさしく、明るいLED照明の導入に重点的に取り組むこととし、設備交換にかかる経費の一部を補助する。

【補助の概要】

- ・対象：1基から無制限
- ・補助基準額：購入価格の1/2（1基あたり上限：10,000円）
- ・補助上限額：50,000円

【適用実績】

- ・平成27年度：132件
- ・平成28年度：116件
- ・平成29年度：158件
- ・平成30年度：126件（見込み）

2 みんなで創る エコまち推進プロジェクト

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出抑制に向け、市域全体での省エネルギー運動の展開、省エネルギー製品の導入など、市民、事業者、市が一丸となって、地球にやさしいまちの創造に取り組みます。

(1) 省エネ生活普及促進事業【見直し】 予算額 6,000 千円 (みんなで輝く LED で光るまちプロジェクトのLED 照明設備補助金を含む)

家庭における省エネルギー化の促進を図ることで地球環境への負荷を低減し、併せて地域経済への波及効果を促すため、市内における省エネ製品の設置費を助成する。

平成 31 年度は、固定価格買取制度における売電期間が順次終了することから、自家消費にシフトするための定置用リチウムイオン蓄電池を設置する傾向にあることを踏まえ、当該設備の補助額上限を 8 万円から 5 万円に引き下げ、他の省エネ設備に影響を及ぼすことのないよう見直しを行う

【対象となる省エネ設備】

| 対象設備 | 補助額 (円) | 要件 |
|-----------------------------------|----------------------------|--------------|
| 定置用リチウムイオン蓄電池 | 1/2 上限 50,000 | 新築既存家屋・市外業者可 |
| 家庭用燃料電池コージェネレーションシステム (エネファーム) | 1/2 上限 80,000 | 新築既存家屋・市外業者可 |
| ホームエネルギーマネジメントシステム (HEMS) | 1/2 上限 30,000 | 新築既存家屋・市外業者可 |
| 地中熱利用空調器 | 1/2 上限 100,000 | 新築既存家屋・市外業者可 |
| 木質バイオマスストーブ | 1/2 上限 30,000 | 新築既存家屋・市外業者可 |
| 太陽熱利用システム | 1/2 上限 30,000 | 既存家屋・市内業者 |
| 複層ガラス・二重サッシ | 50,000 経費 100,000 以上が対象 | 既存家屋・市内業者 |

【適用実績】

※平成 30 年度は見込み数値

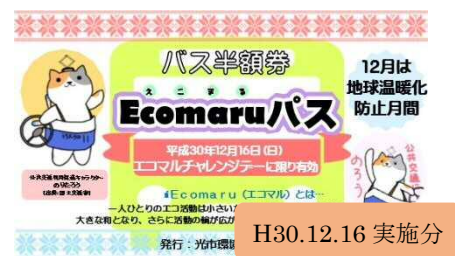
| 年度 | 第一種設備 | | | | | 第二種設備 | | 合計 |
|----|-------|--------|------|---------------|-----------------|---------------|-----------------|----|
| | 蓄電池 | エネファーム | HEMS | 地中熱利用 空調設備 | 木質バイオ マスストーブ | 太陽熱利用 システム | 複層ガラス・ 二重サッシ | |
| 27 | 8 | 6 | | | 3 | 2 | 18 | 37 |
| 28 | 5 | 10 | 26 | 0 | 1 | 1 | 13 | 56 |
| 29 | 5 | 4 | 21 | 0 | 2 | 1 | 3 | 36 |
| 30 | 18 | 2 | 16 | 0 | 1 | 2 | 19 | 58 |

(2) 省エネルギー運動推進事業【継続】 予算額 110 千円

温室効果ガスの排出抑制や環境問題に対する意識の醸成などのエコライフを促進するため、12月の第3日曜日を「エコマルチャレンジデー」とし、光市地球温暖化対策地域協議会と協働で、市民に省資源、省エネルギーの一斉行動を呼びかける。

平成31年度は、各家庭における電気使用量等の削減率を競う「省エネ活動キャンペーン」を継続実施するとともに、平成30年度は年間2回の実施であった、市内に路線網を有するバス運賃を半額とする「ノーマイカー運動」の拡充を目指し、民間バス会社への働きかけを行う。

※上記予算のほかに、光市地球温暖化対策地域協議会の経費を合わせて事業を実施



☆市広報に掲載するバス半額券（Ecomaru パス）を半額運賃とともに運賃箱に投入

(3) 電気自動車普及促進事業【継続】 予算額 912 千円

地球温暖化防止に寄与する電気自動車の普及や中山間地域の活性化を目的に、平成26年9月から光市農業振興拠点施設「里の厨」に設置した電気自動車用急速充電器について、引き続き現状通りの運用を行う。

3 みんなで守る 水と緑 自然共生プロジェクト

「自然敬愛都市宣言」のまちとして、本市が誇る白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸、母なる島田川、緑豊かな石城山など、これまで先人より連綿と受け継がれてきた水や緑の豊かな資源を守り、次代へ受け継いでいく機運の醸成を図ります。

また、水や緑が私たちの生活にもたらす恩恵に感謝するとともに、人と自然が共生する快適環境づくりを進めるため、市民、事業者、市の連携と協働による環境の保全・再生、創造活動に取り組みます。

(1) 日本の森・滝・渚全国協議会関連事業【新規・継続】 予算額 530千円

72団体が加入する「日本の森・滝・渚全国協議会」の活動を通じて、自然敬愛の精神を広く全国に発信するとともに、まちぐるみで、本市の自然環境の重要性や「自然との共生」のあり方を見つめ直す契機とする。

平成31年度は、協議会総会や自然敬愛サミットを光市で開催するほか、協議会として取り組む新たな事業について検討する。

【日本の森・滝・渚全国協議会の概要】

- 趣旨 資源の効果的な活用と地域相互の連携を通じて、地域の活性化や知名度向上に取り組むとともに、自然敬愛に基づき、郷土を愛する心を育み、心豊かな人づくり、自然と共生する潤いのあるふるさとづくり、国づくりを推進し、日本の豊かな自然を守り後世に伝える。
- 経緯 森林浴の森全国協議会、日本の滝全国協議会及び日本の渚全国協議会の統合により、平成19年に発足
- 会員 平成31年2月末現在で72団体

【総会関連事業の開催概要】

- 時期 平成31年8月22(木)～23日(金)
- 会場 ホテル松原屋及び光市民ホール
- 内容 理事会、総会、全国自然敬愛サミット2019、交流会、現地視察

(2) 特定外来生物対策事業【継続（事業名変更）】 予算額 154千円

平成30年度までは、アルゼンチンアリ対策事業としていたが、セアカゴケグモの発見に伴い、事業名を変更する。

【アルゼンチンアリ】

平成24年度から室積東ノ庄を中心に防除区域を定めてモニタリング調査及び一斉防除作業を実施してきたが、平成31年度は、平成30年度と同様、市が主導して一斉防除を行うものの、薬剤については、土地の所有者や管理者に準備してもらうこととする。

なお、公共施設や市有地については、市の責任により実施し、生息域の拡大を防ぐとともに、引き続き、モニタリング調査を実施し、生息状況の実態を把握する。

また、課題となっている空き地や空き家の防除について、自治会や近隣住民と連携し、問題解決に努める。

【セアカゴケグモ】

平成30年8月に周防工業団地でセアカゴケグモが発見されたことに伴い、周防工業団地内及び周辺道路の生息確認調査を行うとともに、発見時には速やかに駆除を行う。

(3) 犬の飼い方教室開催事業【継続】 予算額 30千円

適正な犬の飼育方法について広く理解を深めてもらうとともに、散歩時における糞の後始末等のマナー意識の向上を図るため、「動物の飼い方マナーアップ強化期間（9月～10月）」に合わせて、犬の飼い方を学ぶための講座を開催する。

【開催実績】

| 年 度 | 会 場 | 参加者数 |
|--------|----------|------|
| 平成27年度 | 市民ホール前庭 | 45人 |
| 平成28年度 | 市民ホール前庭 | 28人 |
| 平成29年度 | 悪天候により中止 | — |
| 平成30年度 | 市民ホール前庭 | 29人 |

4 みんなで進める MOTTAINAIプロジェクト

自然破壊や地球温暖化等の環境問題を引き起こしてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型社会からの転換を図り、持続可能な循環型社会を構築するため、日本古来の「もったいない」という文化を継承し、廃棄物の発生抑制や再資源化の推進に取り組みます。

(1) 生ごみリサイクル促進事業【継続】 予算額 300千円

家庭から排出される可燃ごみの約60%を占める生ごみの減量化とリサイクルを推進するため、家庭用生ごみ処理機等購入費助成制度を継続する。

【補助実績(件)】

※平成30年度は2月までの実績

| 年 度 | 補助件数 | | | 合計 |
|--------|----------|---------|-----------|----|
| | 電動生ごみ処理機 | コンポスト容器 | 段ボールコンポスト | |
| 平成27年度 | 13 | 5 | 61 | 79 |
| 平成28年度 | 9 | 8 | 34 | 51 |
| 平成29年度 | 7 | 8 | 28 | 43 |
| 平成30年度 | 5 | 7 | 19 | 31 |

(2) リサイクル推進事業【継続】 予算額 2,120千円

再資源化可能であるにもかかわらず、多くが焼却処分されている「紙類」や、「繊維類」「金属類」「瓶類」の再資源化を促すために、資源回収団体に交付する奨励金を継続して交付し、再資源化の促進と可燃ごみの減量化につなげる。

(3) ごみダイエット促進キャンペーン【継続】 予算額 277千円

ごみの減量化やリサイクル促進をテーマに、育児用品や子ども用品に特化したリユース事業など不用品交換システムの充実を図るとともに、イベント等を活用した啓発活動を推進する。

また、世代に応じた環境学習として、中学生や小学4年生、保育園児・幼稚園児を対象とした体験型の環境学習をはじめ、自治会や各種団体などを対象とした出前講座や廃棄物処理施設を巡るツアーなどを継続的に実施する。

【リユースネット利用実績】

●譲ります

平成 30 年度は 2 月までの実績

| | 平成 27 年度 | | 平成 28 年度 | | 平成 29 年度 | | 平成 30 年度 | |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | リユース ネット | リユース キッズ | リユース ネット | リユース キッズ | リユース ネット | リユース キッズ | リユース ネット | リユース キッズ |
| 登 録 | 110 件 | 141 件 | 101 件 | 152 件 | 73 件 | 136 件 | 78 件 | 128 件 |
| 成 立 | 58 件 | 112 件 | 69 件 | 130 件 | 52 件 | 122 件 | 45 件 | 115 件 |
| 成立率 | 52.7% | 79.4% | 68.3% | 85.5% | 71.2% | 89.7% | 57.7% | 89.8% |

●譲ってください

| | 平成 27 年度 (リユースネット) | 平成 28 年度 (リユースネット) | 平成 29 年度 (リユースネット) | 平成 30 年度 (リユースネット) |
|-----|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 登 録 | 105 件 | 96 件 | 77 件 | 62 件 |
| 成 立 | 32 件 | 31 件 | 29 件 | 23 件 |
| 成立率 | 30.5% | 32.3% | 37.7% | 37.1% |

【環境学習参加者数】

※3 月末までの実績見込み

| | 実施校・団体 | 参加人数 |
|---------|--------------|---------------|
| 中学校 | 5 校 (8 回) | 1,190 人 |
| 小学校 | 10 校 | 464 人 |
| 幼稚園・保育園 | 9 園 | 468 人 (保護者含む) |
| 出前講座 | 12 団体 (12 回) | 252 人 |

【ごみの行方見学ツアー参加者数】

※3 月末までの実績見込み

| | 実施回数 | 参加人数 |
|----------|------|-------|
| 平成 27 年度 | 10 回 | 184 人 |
| 平成 28 年度 | 12 回 | 239 人 |
| 平成 29 年度 | 15 回 | 257 人 |
| 平成 30 年度 | 12 回 | 198 人 |

※平成 27 年度から再生可能エネルギー施設見学含む

5 みんなでつなぐ 環境「まなび」プロジェクト

次代を担う子どもたちの環境保全意識を醸成し、主体的な活動を促進するため、これまでに私たちが引き起こしてきた地球温暖化問題や生物多様性の危機、ごみ問題など、地球規模から身近な課題までを、学び、考え、行動につなげる環境教育に取り組めます。

また、幅広い世代の人が学べる講座や体験学習会等を開催し、環境への配慮に対する意識の向上を図るとともに、今後の環境教育を担う人材の育成につなげます。

(1) 環境「まなび」推進事業【拡充・継続】 予算額 158千円

地球温暖化をはじめとする多様な環境問題が深刻化する中、市民一人ひとりが身近なこととして捉え、正しく認識するとともに、解決に向けて自らが考え、取り組んでいく機運の醸成を図るため、幅広い世代を対象とした環境教育を実施する。

【小学生向け】

「ひかりエコくらぶ」を継続実施し、市内の様々なフィールドを活用した自然体験学習会を開催する。

【中学生向け（新規）】

「ひかり環境未来塾（仮称）」と称し、市内全中学校を対象に、学校の指導だけでは知り得ない企業や個人の環境に配慮した取り組みについて、出前授業形式で現場の生の声を聞く機会を創出する。

【一般向け】

市民夏季大学を活用し、地球温暖化をはじめとする喫緊の環境問題について講演会を実施することで、一人ひとりが解決しようとする意識の醸成を図る。

●講師 池田 清彦 氏（生物学者・早稲田大学教授）

●演題 ほんとうの環境問題



(2) ひかりエコフェスタ開催支援事業【継続】 予算額 200 千円

市民団体や企業の環境問題への取組みについて、広く市民に紹介するとともに、子ども達が楽しみながら環境問題について学ぶ場を提供し、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題に対する市民意識の高揚を図るため、ひかりエコフェスタ実行委員会による「ひかりエコフェスタ2019」の開催を支援する。

(3) 環境学習推進事業【継続】 予算額 83 千円

子どもたちに自然とふれあう機会を提供し、自然を大切にする心を育むため、小学校の総合学習の時間等に講師を派遣し、自然環境や温暖化に関する学習を支援する。

(4) エコスタイルセミナー【継続】 予算額 10 千円

講演会や見学会を通して、環境問題に関する知識や理解を深める場を提供するため、光市温暖化対策地域協議会と協働で、市民を対象としたセミナーを開催する。

(5) ごみの行方&エネルギーの始まり見学ツアー【継続】 予算額 85 千円

環境問題に関心を持つ市内の団体等を対象に、ごみ処理施設や再生可能エネルギー施設の多様な環境関連施設の見学機会を提供し、資源循環や低炭素など環境問題を複合的な視点から考察できるツアーを開催する。